

高齢社会と介護予防への対応だけではもったいない！

「新・つながるプロジェクト」地域包括ケアを多様化させよう！



宇都宮市清原地区

公益財団法人とちぎYMCA総主事 塩澤達俊様

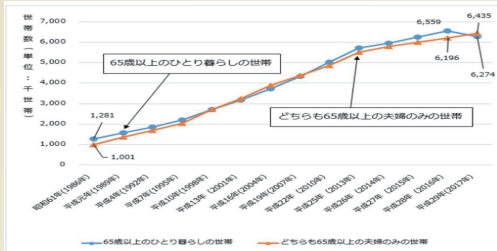
28班 コミュニティデザイン学科 川村瑠花、高澤颯人

建築都市デザイン学科 齋藤詩織、塚本直矢

社会基盤デザイン学科 青柳駿

①背景

近年我が国では急速に高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増加している。平成28年(2016年)から平成29年(2017年)にかけて「65歳以上の高齢者のひとり暮らし、夫婦のみの世帯数は増加傾向にある(図1参照)。



(図1: 65歳以上のひとり暮らしと夫婦のみの世帯数の推移)



孤立した高齢者同士が交流する場が必要

②目的

「地域の人の居場所」+「高齢者が活躍できる場」
地域サロン(地域の高齢者等が身近なところで気軽に交流できる場)

サロンの現状は？

サロンの課題は？

住民のニーズは？

③調査方法

1) インタビュー

・地域サロン運営者

→サロンの基本状況(活動内容、参加状況、開催頻度等)、サロンを開いた背景、改善点、今後の見通し等

・参加者

→参加理由・頻度、地域サロンへの要望、どんな地域サロンがあったら行きたいか等

2) アンケート調査

@かましん清原店、ウェルシア清原台店

地域サロンへの参加の有無

・有と回答した人→具体的なサロンの情報や参加したメリット等

・無と回答した人→地域サロンへの興味や参加しない理由等

3) 地域サロンの現地訪問

実際に地域サロンに訪問し、主催者と参加者にインタビュー



④調査結果

1) インタビュー調査 @清原地区六丁目地域サロン「きずなカフェ」

活動...10人前後でちぎり絵

・サロン運営者の森田さん、湯本さん

→「一人暮らしの高齢者が地域住民と交流できるように、地域の使わなくなった元飲食店舗を再利用している」

・参加者

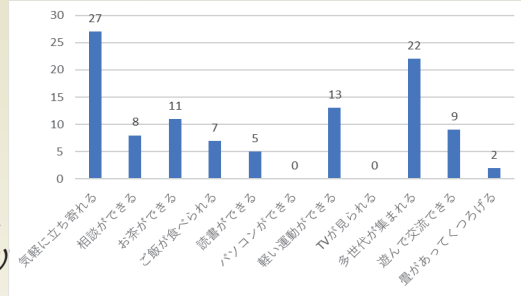
→「サロンに参加することで、地域内でなんとなく顔見知りという人が増えて、声をかけやすくなる」

高齢者同士の交流で
孤立や孤独死の予防、新しい趣味や生きがいの発見
 になりそうだ！

2) アンケート調査

参加あり	10人
参加なし	52人
合計	62人

(表1: 地域サロン参加の有無 n=62)



(図2: 地域交流の場として魅力を感じるもの n=51)

- 気軽に立ち寄れる場、多世代交流ができる場
- × パソコンができる場、TVが見られる場

3) 地域サロンの現地訪問 @いきいきサロン

活動内容...体操、ハーモニカやカスタネットの演奏、歌の鑑賞

・主催者 佐藤さん

「居場所がどうい場所かは分からないが、**ここは楽しみを作り提供する場**」

・参加者

「徒歩圏内で活動できる場を設けてくれてありがたい」

「みんなで顔を合わせられて楽しい」

☆「若い人も話してみたい」

☆「若い人がいてくれたら張り合いがでるのではないかな」



⑤考察・提案

ニーズ

気軽に立ち寄れる
多世代間交流

スポーツ交流

Ex) ウォーキング、
軽い球技等

【スポーツ交流】

☆老若男女問わず、様々な世代間で活動し、教え合うことができる。

☆子どもと高齢者→運動レベルがある程度同等？

…適度な運動が可能かも！

☆子ども→**体力増進**

親世代→**運動不足解消**や**リフレッシュ効果**

高齢者→**健康維持**や**介護予防**

☆スポーツであれば知識や経験があまり必要なく、**誰でも簡単に楽しく始めることができる**

⑥今後の課題

今後の課題として、今回の調査であまり回答を得られなかった20代から30代、さらには子どもたちからの意見を収集することが挙げられる。コロナ禍ということもあり、そもそもアンケート調査の回答数は十分ではなかったが、なかでも上記の世代の声をほとんど集められなかったのが事実である。また、今回の調査で明らかになった地域交流へのニーズの多くが高齢者の意見であり、若者世代が実際はどう感じているのかは分からないのが現状である。そのため、今後はより理想的な多世代間交流を実現するためにも、若者世代に焦点を当てた地域交流に関する調査を行う必要があると思われる。

